

ただいま
台風シーズン

利根川下流部での洪水に向けた備えは？

東日本大震災で、利根川下流部(取手市、我孫子市より下流)は、約250箇所被災しましたが、応急対策を経て、翌年の夏までに復旧しました。



震災直後の被災の様子(千葉県栄町中谷地先)
つくばみらい市



平成23年3月14日より約1ヶ月で応急対策を実施し
6月からの出水期に備えました

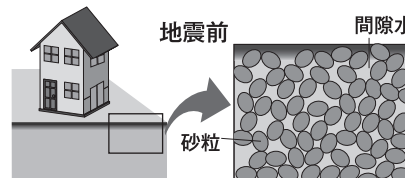


出水期が終了してすぐに本格的な復旧工事に着手し、
翌年の夏までに工事を完了しました

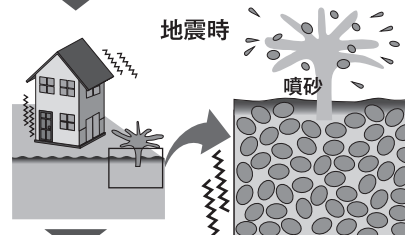


この×印は
被災箇所!!

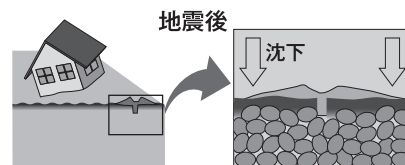
被災の原因の多くは「液状化、でした



普段は砂粒同士が支え合い、その間を水(地下水)が満たしている状態で安定しています。



激しい振動で砂粒の支え合いが崩れ、水の圧力が高まり、亀裂箇所などから圧力に耐えられずに泥水が地表に噴出します。



液状化が起こると、地盤沈下、地中のマンホールの浮き上がり、建物の傾き、転倒などの被害が発生します。

印旛利根川水防事務組合 事務局長 高塚茂明さんにお聞きしました。

Q.堤防をどのようにして守っているのですか？

平常時には堤防の巡視、水防倉庫に備蓄されている水防資材の確認、通信機器の点検等を行うとともに、毎年水防訓練を実施し、洪水に備えています。洪水時には降雨や河川水位等の情報を収集し、河川管理者と連携して昼夜を問わず巡視、警戒を実施し、必要があれば水防工法を実施します。



Q.地域の皆さんに伝えたいことは？

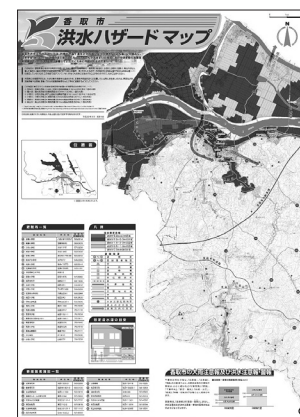
栄町は、千葉県内で「安心・安全なまち」第一位となっており、これも町水防団の活動の賜物と考えています。水防団は「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき、活動を行っています。一人でも多くの方が水防団にご理解をいただけますよう、お願いします。洪水は忘れた頃にやってきます。台風シーズンには毎日のように洪水被害が報道されていますが、他人事と思わず、常日頃から非常時の備えや避難場所についてご家族や職場の皆さんと確認しておいてください。



自分や家族の身を守るために、自らの積極的な行動が重要です。

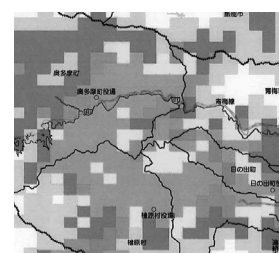
浸水想定区域、想定される水深、避難場所などを表示した「洪水ハザードマップ」を確認してください。

まずは自分の住む自治体のHPから探してみましょう。そして、家族で避難ルートや避難場所を確認しましょう。下見をするとなおベター。

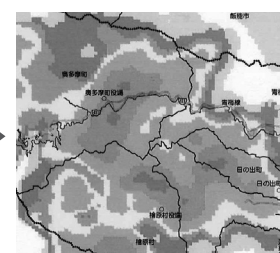


香取市洪水ハザードマップ

リアルタイムな雨量状況が確認できる「XバンドMPレーダー」をチェックしてください。



Cバンドレーダー



XバンドMPレーダー

近年、増加する集中豪雨や局所的な大雨に対して従来までのCバンドレーダーと比べて高頻度、高分解なXバンドMPレーダーを導入し、リアルタイムの観測データを提供しています。

<http://www.river.go.jp/xbandradar/>

